

# 令和5年度 桜井市社会福祉協議会事業報告

桜井市社会福祉協議会（以下「社協」という。）は、地域福祉の推進を図ることを目的とし、多様化する福祉ニーズに応えるため、地域の住民、ボランティア、各種団体と協力しながら、地域特性を踏まえた活動への支援のほか、福祉サービス利用者の自立支援のための良質かつ適切な各種サービスの提供に努め、「ふれあいのまちづくり」の実現に向けて取り組んでいます。

しかし、長引くウクライナ戦争や対中対立、中東情勢など国際社会を取り巻く環境は不確実な状況が続くと予測されることに加え、円安による物価高騰の影響により、市民の暮らしが激変し、経済的な課題が顕在化しています。

特に、生活困窮にかかる問い合わせは、生活支援資金等の新型コロナによる特例貸付が終了した今日でも、多くの相談が寄せられており、相談者に寄り添った支援とともに、関係機関への橋渡しの支援を行っています。

そして、令和元年からの新型コロナウイルス感染症の世界的な大流行や元日の能登半島地震など毎年のように災害が発生し、甚大な被害が出ております。特に、介護保険事業や障害福祉サービス事業では、いつ起こるとも知れない災害時や感染症発生時に備え、継続的・効果的な推進体制を維持し、出来る限り円滑・的確な対応を行うことができるよう基本的な行動基準や対応策等の基準を定め、非常時に備え職員への研修等を行う等日頃から準備を行っておく必要があります。

## 1. 法人事業

社会福祉活動功労者表彰式を開催し、地域福祉の増進や住民生活の安定と向上に尽力された30名（社協会長表彰状20名、市長感謝状10名）に対し、各種表彰状を授与しました。

また、「社協だより」の年3回発行、大福地区において給食サービス事業や善意銀行事業を行いました。

## 2. 地域福祉事業

令和5年5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことで、市内の各種団体の協力のもと「～思いやり、心ときめく、ふれあうよろこび～」をテーマに、「市民ふれあい福祉まつり」を、4年ぶりに桜井市立図書館で開催し、396名の参加がありました。

また、「心配ごと相談所」は、民生児童委員のご協力により、市民の心配ごとの相談と向き合い、その解消に向けて取り組みました。

そして、新型コロナウイルス感染症の影響により中止していた地域福祉委員に対する研修会を11月10日・11月11日に実施し、143名の参加がありました。地域福祉委員に向けて、小地域福祉活動の柱の一つである「ふれあいサロン活動」について、その意義や企画・準備から開催日当日、その後までの流れについてのポイントをまとめた資料を配布し、休止中のサロンの再開や新たなサロンの立ち上げ支援、また既存のサロンの活性化につながるよう支援に努めました。サロンの活動の支援のため、「ふれあいサロン活動」助成金を27地区に交付した他、自治会、民生児童委員、市内包括支援センター、行政等関係機関と連携し、地域の解決・支援に取り組みました。

生活支援体制整備事業については、桜井市から生活支援体制整備事業の一部を受託し、生活支援コーディネーター2名を大三輪中学校区と桜井中学校区を主担当、桜井西中学校区と桜井東中学校区を副担当として配置。市の担当者と同方向性を共有・連携し、地域住民等のネットワークの構築及び地域情報の把握に取り組みました。

また、福祉サービス利用援助事業については、認知症・高齢者・知的障害者・精神障害者などの意思決定能力の不十分な方に対し、自立した生活が可能となるよう支援しました。

そして、共同募金事業につきましては、自治会や民生児童委員等の活動団体・関係機関のご協

力により、令和4年度とほぼ同程度の募金額を確保できたことにより、市内にある福祉施設、社会福祉・障害者(児)活動団体などが実施する福祉事業に対して助成することができました。

また、新型コロナの影響を受けて、離職などにより収入が減少した世帯に対して支援する緊急小口資金等の「生活福祉資金の特例貸付」は、令和4年中に終了となり、その貸付件数・貸付額は前年度より減少しましたが、低所得・高齢者・障害者世帯への資金の貸付けを行うとともに、くらしとしごと支援センターと連携し、経済的自立に向けて支援を行いました。

### 3. ヘルパーサービス事業

利用者が居宅において、その有する能力に応じ、できる限り自立した日常生活または社会生活を営んでいただくため、利用者の意思及び人格を尊重し、利用者の心身の状況や置かれている環境に応じて、必要な介護保険サービスまたは障害福祉サービスを適切かつ効果的に提供できるよう事業を実施しました。

### 4. 障害者福祉サービス事業・障害児通所支援事業

障害福祉サービスセンター「あゆみ」は数少ない市内の事業所として、自立促進や生活改善のためのサービスを提供し、また、児童発達支援事業所「クローバー学園」では、子どもの社会生活の適応を高め、豊かに伸びゆく可能性を引き出せるよう支援しました。

### 5. 受託事業

相談支援事業所「こころ」は生活のための基本相談に基づくソーシャルワーキング、生活介護等のためサービス利用計画の作成を、また地域活動支援センター「こころ」は精神に障害をもつ方に対し、日中活動の居場所を提供するとともに、プログラムの実施に取り組みました。登録者も67人となり、新型コロナウイルス感染症の「5類感染症」への位置づけ変更において、部門間連携により実現した多彩なプログラムや、ボランティアの積極的な受け入れ再開によりイベントやレクリエーションの機会を増やしたことで、利用数が増加しました。

そして、桜井市から受託しております生活困窮者自立支援事業についてですが、桜井市くらしとしごと支援センターにおいて、多様な問題を抱えた生活困窮者に対し、個別にアセスメントを行い、継続的な関りによる支援を行いました。

具体的には、税等の滞納に対する分納手続きのための官公庁、無料診療のための病院、就労支援のためのハローワーク、多重債務等の解決に向けた法律事務所等の各関係機関へと繋ぐ支援を行うとともに、奈良県社会福祉協議会と連携し、就労準備支援事業として、カウンセリングや生活習慣の見直しなどの助言・指導を行いました。

さらに、相談過程の中で、消費を中心として家計に課題があると思われる場合、消費・節税に対する助言などの家計改善に向けた支援や、住民税均等割のみ課税世帯支援給付金や非課税世帯への価格高騰追加支援給付金といった行政施策の案内・情報提供などを行いました。

### 6. 指定管理事業

市からの受託業務である「総合福祉センター」は利用促進を図る中で、新型コロナにより減少していた入館者数も回復から増加傾向にあり、引き続き施設の適正管理に努め、市内外からの利用促進を図るとともに、文化教養活動やコミュニケーションづくりの場として、地域福祉の充実や市民の健康づくり・生きがいを支援しました。

## 7. ボランティアセンター事業

市民のボランティア活動の推進を図るため、ボランティアセンターでは、ボランティア活動に関する相談対応、活動支援、コーディネート等を行いました。

また、令和5年5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことで、市民活動の再開、新しい展開や取り組み等の情報を整理、提供し、活動支援に取り組みました。

社協のホームページ内「ボランティアセンター」で最新情報を掲載し、ボランティアの拠点としてボランティア情報の発信・活動啓発に努めました。

### 【令和5年度決算等について】

令和5年度における資金収支は約14,423千円の赤字となり、資産保有の指標である「純資産」は253,128千円で、令和4年度決算時より37,825千円の「純資産」減少となりました。令和4年度決算時の32,500千円の減少より単年度収支で約5,325千円悪化しました。

その悪化の要因として、物価高騰による物件費・管理費等、最低賃金の引き上げに伴う人件費の上昇による支出が挙げられます。

事業別では、相談支援事業「こころ」の10,113千円、地域活動支援センター「こころ」の3,675千円の赤字が挙げられます。

また、介護保険・障害福祉サービス事業は、利用者の減少により減収となりました。

このようなことから、持続的な運営を続けるため、落ち込んでいる共同募金活動の見直しや受託事業の積算見直し、充当財源がない社協単独事業の見直しなど、純資産の減少に歯止めをかける取り組みが重要となります。

今後、社協といたしましては、収支が厳しい事業につきましては、中長期的な是非を検証していく必要があると考えます。

# 1. 法人・給食サービス

## (1) 法人運営事業

### ① 理事会の開催

#### 第1回理事会

【開催日】令和5年6月7日(水)

【場 所】市保健福祉センター「陽だまり」会議室2

#### 第2回理事会

【開催日】令和5年7月3日(月)

【場 所】市保健福祉センター「陽だまり」会議室2

#### 第3回理事会

【開催日】令和6年3月14日(木)

【場 所】市保健福祉センター「陽だまり」会議室2

### ② 評議員会の開催

#### 定時(第1回)評議員会

【開催日】令和5年6月23日(金)

【場 所】市中央公民館大会議室

#### 第2回評議員会

【開催日】令和6年3月27日(水)

【場 所】市中央公民館大会議室

### ③ 社会福祉活動功労者表彰式の開催

地域福祉の増進や、安定した市民生活の向上に功績があった方に各種表彰を授与した。

【開催日】令和5年9月2日(土)

【場 所】市本庁舎大会議室

【表彰者】市長感謝状10人 市社協会長表彰状20人

### ④ 「社協だより」の発行

年3回、社会福祉協議会が取り組む地域福祉事業、ボランティア事業等の推進・啓発を図るため、「社協だより」を発行した。

### ⑤ 3人乗り自転車貸出事業の実施

多子世帯の経済的負担を軽減のため、6台の幼児2人乗用自転車(3人乗り自転車)の貸出しを行った。

## (2) 給食サービス事業(桜井市補助事業)

食事調達が困難な65歳以上の寝たきり独居老人、障害者などの安否確認・食生活改善を目的に、月2回の手づくり弁当を配食、老人交流を目的とした昼食会の開催の取組を行っている大福校区給食サービス推進協議会に対して支援を行った。

### ○ 実績報告

		令和5年度	令和4年度	令和3年度
配食サービス	実施回数	23回	24回	23回
	利用人数	1,221人	924人	686人
昼食サービス	実施回数	8回	実施なし	
	利用人数	149人		

## (3) 善意銀行事業

個人及び団体(企業を含む)からいただいた預託金は被災された世帯への見舞金や福祉施設への支援に、また日用品等の預託物品については障害福祉サービス事業所や養護施設等への取次ぎを行った。

① 役員会の開催

【開催日】令和5年4月19日(水)

【場所】市保健福祉センター「陽だまり」会議室2

② 預託金実績

収支項目	令和5年度		令和4年度	
繰越金(定期預金を含む)		27,211,260円		26,210,917円
預託金	60件	1,388,866円	37件	1,617,952円
預金利子(定期預金を含む)		472円		465円
<b>収入合計</b>		<b>28,600,598円</b>		<b>27,829,334円</b>
払い出し金(見舞金等)		683,931円		618,074円
翌年度へ繰越金(定期預金を含む)		27,916,667円		27,211,260円

2. 地域福祉事業

(1) 地域福祉事業

地域住民の参加と関係機関の連携のもと、住民相互の助け合いや交流の輪を広げ、共に支え合う地域づくりを行うため、より具体的な課題に対応する事業を実施した。

① 心配ごと相談所

毎週木曜日(祝日・年末年始を除く)に心配ごと相談所を開設し、民生児童委員24名が「相談員」として、様々な心配ごとを抱える市民の相談に向かい合い、心配ごとの解消に取り組んだ。

	開設日数	相談件数	相談者数	相談員
心配ごと相談	47日(26日)	35件(21件)	10人(6人)	民生児童委員
心配ごと相談日以外の日の相談		1件(4件)	1人(4人)	社協職員

※ 相談件数は、1人の相談者で複数の内容の相談があった場合は、それぞれ1件として集計しています。

※ ( )内、令和4年度

② 車いす等貸出し

歩行移動に不安な方、一時的に歩行困難になった方等へ、1回につき最大10日間まで無料貸出しの利用は、年間延べ76件(令和4年度71件)となった。

また新型コロナワクチン集団接種会場への貸出し2件12台をはじめ、選挙投票所への貸出し13台、公共施設への長期貸出し1件1台、その他にも5小学校に高齢や障がいへの理解を深める福祉の体験学習用として車いす53台、また地域の防災訓練に体験用装具等の貸出しを行った。

③ 「市民ふれあい福祉まつり」の開催

令和5年5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことで、市内の各種団体の協力のもと「～思いやり、心ときめく、ふれあうよろこび～」をテーマにした「市民ふれあい福祉まつり」を、4年ぶりに桜井市立図書館で開催し、396名の参加があった。

④ 地域福祉活動のコーディネート

地域住民による地域福祉活動に対して、相談・援助活動などを行った。

⑤ 小地域福祉ネットワーク活動の推進

○ 地域福祉委員等活動の推進

令和5年5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことで、地域福祉委員289名に対する研修会を11月10・11日に実施し、143名の参加があった。

また、地域福祉委員に向けて、小地域福祉活動の柱の一つである「ふれあいサロン活動」について、その意義や企画・準備から開催日当日、その後までの流れについてのポイントをまとめた資料を配布し、休止中のサロンの再開や新たな課サロンの立ち上げ支援、また既存のサロンの活性化につながるよう支援に努めた。サロンの活動の支援のため、「ふれあいサロン活動」助成金を27地区に交付した。

○ 地区社会福祉協議会活動の支援

令和5年5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことで、市内12地区において地区社協活動が計画され活動がなされた。その活動に対して補助金を交付し、その活動を支援した。

○ 民生児童委員・福祉委員・自治会との連携強化

小地域福祉ネットワーク構築のため、民生児童委員・福祉委員・自治会との連携を図り、地域福祉の推進に努めた。

○ 小地域福祉ネットワーク活動の啓発

社協だよりに「ふれあいサロン活動」や「ゆるやかなみまもり活動」についての記事を掲載し、地域住民が身近なところでつながりを作り、互いに気に掛け合う関係づくりに向けた啓発を行った。

(2) 生活支援体制整備事業(市受託事業)

桜井市から生活支援体制整備事業の一部を受託し、生活支援コーディネーター2名を大三輪中学校区と桜井中学校区を主担当、桜井西中学校区と桜井東中学校区を副担当として配置。市の担当者とは方向性を共有・連携し、地域住民等のネットワークの構築及び地域情報の把握に取り組んだ。

健康寿命延伸の為の社会参加や交流・通いの場の充実、住民同士の互いに気にかけて関係づくりの重要性について、広報誌への関連記事の掲載やふれあいサロンや地域の各種団体への出前講座等をとおして、市民啓発に努めた。また、市内の地域包括支援センターと協働し、地域活動への参加や活動についての相談支援にあたるなかで、地域の実情を把握し、日常生活での困りごとのニーズの掘り起こしや交流の大切さを日常生活支援の立場から訴え、市民意識の高揚の一翼に努めた。

地域包括支援センターと生活支援コーディネーターで情報共有会を定期開催し、地域に関する情報の共有に努め、関係者の協力により、市内の居場所・通いの場の一覧表を作成し、関係機関をとおして情報提供できる地域資源の「見える化」ができた。

日常生活のなかの困りごとについて支援活動の実践や、支援に向けた話し合いを継続されている団体には、伴走支援を行った。これらの団体に関わるなかで、市内の他の団体の取り組み状況を知りたいという要望に、生活支援コーディネーターが仲介して情報を伝えてきたが、従来の活動圏域を超えた住民同士の連携を図り、地域課題解決の道へのアプローチを目指し、令和6年2月9日に「第1回桜井市支え合い交流会」を開催し、6団体19名の参加があった。この交流会を契機に、いわゆる「協議体(話し合いの場)」を設立しながら、コロナ禍の影響や役員の交代等から停滞している団体にも再開の働きかけを行った。

(3) 福祉サービス利用援助事業(日常生活自立支援事業[奈良県社協受託事業])

認知症・高齢者・知的障害者・精神障害者などの意思決定能力の不十分な方に対し、福祉サービスの利用についての情報提供や諸手続き、また日常的な金銭管理の援助などを行い、自立した生活が可能となるよう支援し、福祉権利の擁護に取り組んだ。また本事業の利用に関する相談に対し、相談者の生活課題等を整理して、本事業も含めた適切な権利擁護の支援を行った。

	令和5年度	令和4年度
利用者数	13人	13人
訪問回数(延べ数)	223回	170回
事業問合せ・新規相談件数	12件	12件

(4) 共同募金事業

自治会や民生委員等の活動団体・関係機関のご協力により、令和4年度とほぼ同程度の募金額を確保できたことにより、市内にある福祉施設、社会福祉・障害者(児)活動団体などが実施する福祉事業に対して助成することができた。

① 共同募金活動への協力

募金種別	令和5年度	令和4年度	前年度比
共同募金	6,199,788円	6,358,935円	97.4%
戸別募金	2,074,320円	2,116,267円	98%
街頭募金	296,120円	0円	—
職域募金	654,971円	689,184円	95%
学校募金	114,769円	131,372円	87.3%
法人・大口募金	2,593,000円	2,843,000円	91.2%
その他の募金	466,608円	579,112円	80.5%
歳末たすけあい募金	2,150,138円	2,186,649円	98.3%

② 共同募金・歳末たすけあい募金の配分

共同募金は住みよい地域づくり支援として14団体に2,087,000円を、歳末たすけあい募金は24団体に2,186,649円を配分し、福祉施設・活動団体等が取り組む福祉事業を支援した。

(5) 生活福祉資金貸付事業(奈良県社協受託業務)

低所得・高齢者・障害者世帯への資金の貸付けを行うとともに、くらしとしごと支援センターと連携し、経済的自立に向けて支援を行った。

資金名	令和5年度		令和4年度		令和3年度	
	件数	貸付額	件数	貸付額	件数	貸付額
総合支援資金(※)	—	—	39件	20,500,000円	408件	223,000,000円
福祉資金[福祉費]	—	—	2件	290,000円	4件	389,000円
緊急小口資金(※)	3件	288,000円	44件	8,680,000円	191件	37,300,000円
教育支援資金	6件	2,130,000円	4件	1,212,000円	2件	487,000円
合計	9件	2,418,000円	89件	30,682,000円	605件	261,176,000円

※ 新型コロナウイルス感染症に関する特例貸付(令和4年度中に終了)を含む。

### 3. ヘルパーサービス事業

利用者が可能な限り居宅において、その有する能力に応じ自立した日常生活または社会生活を営むことができるよう、利用者の意思及び人格を尊重し、利用者の心身の状況や置かれている環境に応じて、必要な介護保険サービスまたは障害福祉サービスを適切かつ効果的に提供することを目的として次の事業を実施した。

(1) 訪問介護事業 [ヘルパーステーション「れいんぼー」]

○ サービス内容

【身体介護】入浴介助・清拭・洗髪/排泄介助/食事介助/衣服の着脱/通院介助など

【生活援助】調理/洗濯/掃除/買い物/その他相談、助言/関係機関への連絡など

○ 令和5年度事業実績

【延べ利用者数】5,219人(令和4年度 5,940人)

(2) 訪問型サービス [ヘルパーステーション「れいんぼー」]

○ サービス内容

【予防型身体ヘルプサービス】身体介護の一部介助、軽度な生活援助

【生活援助ヘルプサービス】軽度な生活援助

○ 令和5年度事業実績

【延べ利用人数】1,917人(令和4年度 1,951人)

### (3) 障害者介護事業

#### ① 居宅介護事業 [ヘルパーステーション「れいんぼー」]

##### ○ サービス内容

【身体介護】入浴介助・清拭・洗髪/排泄介助/食事介助/衣服の着脱/通院介助など

【家事援助】調理/洗濯/掃除/買い物/その他相談、助言/関係機関への連絡など

##### ○ 令和 5 年度事業実績

【延べ利用者数】 2,526 人(令和 4 年度 2,154 人)

#### ② 重度訪問介護事業 [ヘルパーステーション「れいんぼー」]

##### ○ サービス内容

重度の肢体不自由があり常に介護が必要な方に対する、排泄や入浴に係る部分の介助や胃ろう部からの注入等の身体的な介護及び掃除、洗濯等の家事援助

##### ○ 令和 5 年度事業実績

【延べ利用者数】 173 人(令和 4 年度 529 人)

#### ③ 同行援護事業 [ヘルパーステーション「れいんぼー」]

##### ○ サービス内容

視覚障害者の移動時及びそれに伴う外出先における必要な移動の援護、視覚的情報の支援、排泄、食事等の介護その他外出する際に必要となる援助

##### ○ 令和 5 年度事業実績

【延べ利用者数】 97 人(令和 4 年度 81 人)

#### ④ 移動支援事業 [ヘルパーステーション「れいんぼー」]

屋外での移動が困難な障害者に対し、地域での自立生活及び社会参加を促すことを目的に、ホームヘルパーが外出の支援を行った。

##### ○ 令和 5 年度事業実績

【延べ利用者数】 100 人(令和 4 年度 36 人)

### (4) 養育支援訪問事業 [ヘルパーステーション「れいんぼー」]

養育の支援を必要とする家庭に訪問し、掃除、調理等の家事援助を行った。

##### ○ 令和 5 年度事業実績

【訪問回数】 16 回

### (5) サービス提供日時

年中無休(但し、1月1日～1月3日を除く)

午前 7 時～午後 7 時

### (6) 福祉サービスに関する苦情受付 【苦情件数】 0 件

### (7) 居宅介護支援事業 [指定居宅介護支援事業所「れいんぼー」]

##### ○ サービス提供日時

月～金曜日(但し、12月29日～1月3日と祝日を除く)、午前 8 時 30 分～午後 5 時 15 分

##### ○ サービス内容

居宅サービス計画作成及び調整/申請手続きなどの代行/相談・要望・苦情などへの対応/保険給付管理票の作成/要介護認定訪問調査

##### ○ 令和 5 年度事業実績

【ケアプラン作成数】 延べ 493 件(令和 4 年度 438 件)

【給付管理票作成数】 延べ 349 件(令和 4 年度 373 件)

【要介護認定訪問調査数】 30 件(令和 4 年度 3 件)

##### ○ 福祉サービスに関する苦情受付 【苦情件数】 0 件

## 4. 障害福祉サービス事業

### (1) 障害福祉サービス事業(生活介護事業 [障害福祉サービスセンターあゆみ])

障害者の自立促進、生活の改善、身体機能の維持向上を図ることができるよう、通所による機能訓練、創作的活動や入浴サービスなどの各種サービスを提供することにより、障害者の自立と社会参加を促進し、障害者の福祉の増進を図った。

#### ① サービス提供日時

月～金曜日(但し、12月29日～1月3日と祝日を除く)

・午前10時～午後4時

・午前8時～午前10時及び午後4時～午後7時(日中一時支援事業)

ただし、緊急やむを得ない時は延長あり。

#### ② 事業実績報告

	令和5年度	令和4年度	令和3年度
実利用者数	16人	15人	17人
延べ利用者数	1,555人	1,618人	1,384人
実利用者数(日中一時支援)	4人	5人	5人
延べ利用者数(日中一時支援)	180人	180人	164人

#### ③ サービス内容

##### ○ 機能訓練

定期的に理学療法士らの指導・助言を仰ぎ、個々の訓練プログラムに沿った機能訓練、言語訓練、摂食指導を行った。個々の身体にあった補装具、器具を使用して、関節可動域訓練、筋力強化訓練、歩行訓練、バランス訓練などの運動療法を行う。また座位保持姿勢を長く保てるよう訓練いすの使用や介助者による座位補助を行い、寝たきり、寝かせきりにさせない身体機能の維持・向上を図った。

##### ○ 創作的活動

陶芸、木工、工芸、手芸、フラワーアレンジメントなどの創作活動の中から利用者が選択し、作品を作る喜びや、やり遂げる自信をつけることで、生活経験を豊かにし、生きがいを高めることを目的とする。令和5年度は「桜井市展」に利用者(8名)が、工芸作品「青空のしたで」(のどかなある村の風景をクイリングとコラージュで表現)を出品、奈良県障害者作品展に絵画「ひまわり」、書道「わかちあい」を出品した。

##### ○ 社会適応訓練・入浴サービス

身体の残存機能を維持しつつ自分の生きがいや自立することを目的とした、パソコン教室、理美容、お話、音楽などの講習会などを行った。また入浴における介護者の負担軽減を図ることを目的に、特殊浴槽による入浴サービスを週5回行った。また、入浴に際しては、安全衛生面に留意しながら、看護師による健康チェックを行い、その日の健康状態を把握しながら行った。

##### ○ 更生相談

障害者本人及び家族が、介護や日常生活、社会活動を行う上での不便や悩みなどの相談援助や自分にあった介護用品、自具などの情報提供や相談援助を行った。

##### ○ スポーツ・レクリエーション活動

新型コロナウイルス感染症が5類感染症に位置づけられたことに伴い、縮小・減少となっていた活動を徐々に増やし、11月に4年ぶりの遠足(天王寺動物園)に出かけた。また、桜井市民体育祭(ふれあいの部)に参加。外出可能な時期を見計らい、近隣の天理教(お花見)や図書館への散歩を行った。

お誕生日会やwiiスポーツ等のレクリエーション、音楽活動では色んな楽器を使って演奏会の他、ボランティアの方々によるお話の会(紙芝居や絵本の読み聞かせ)やおやつ作り、かき氷屋さんを招いての夏まつり、クリスマス会や節分(豆まき)など季節に合わせた行事等を計画実施した。

○ 送迎サービス

家族の送迎や自力通所が困難な利用者を対象に、自宅前まで送迎サービスを行った。

④ 福祉サービスに関する苦情受付 【苦情件数】0件

(2) 障害児通所支援事業(児童発達支援事業所 クローバー学園)

発育・発達が気になる未就学児に対して、保護者や子どものニーズに沿った個別支援計画に基づき、様々な活動を通して精神や情緒の発達を促すとともに社会生活の適応を高め、豊かに伸びゆく可能性を引き出せるよう支援した。保護者に対しては、子どもの気になる行動に対し作業療法士からアドバイスを聞ける日を設け、園内での定期的な個人懇談を行い、発達の気になる子どもについての基本的な情報の発信や、子どもの特性に応じた家庭での関わり方などを提案し、子育てについての悩みを一緒に考えながら支援した。

① サービス提供日時

月～金曜日(但し、12月29日～1月3日と祝日を除く)

午前9時30分～午後5時

② 事業実績

	令和5年度	令和4年度	令和3年度
実利用者数(午前対象児)	7人	8人	6人
延べ利用者数(午前対象児)	1,330人	1,227人	1,045人
実利用者数(並行通園児)	38人	35人	41人
延べ利用者数(並行通園児)	781人	733人	763人

③ 主なサービス内容

○ 療育相談

療育に関する相談に応じることにより保護者の不安を軽減し、発達の気になる子どもに対しての知識と理解を深めた。

○ グループ療育

集団にあわせて行動する力や、他の子どもとのかかわり方、感情のコントロールなど、集団生活に欠かせないソーシャルスキルやコミュニケーション能力の向上など、年齢に応じた教材を準備し、小グループ(3～6人)活動を行い、集団行動のルールや社会性を学んでいく療育を行った。

○ 個別療育

個々の発達段階に応じての課題を見つけ1対1の療育により、子どものできることを増やし、子どもの持っている力を引き出すよう努め、自己肯定力が育むよう支援した。

○ 音楽療法

音楽療法士の指導のもと小グループで、音楽を通じ、身体機能、意思伝達能力、注意力、集中力の向上や発語やコミュニケーション能力の促しなど、毎日の生活でも活かせるようなプログラムを経験しながら、心身共に心地よく音楽と触れることができた。

○ アニマルセラピー

犬とふれあうことで、リラックス効果があり気持ちの安定や、やさしさと思いやりの気持ちの芽生え、周りへの関心や興味が広がり社会性の向上や、感情表現の豊かさにもつながった。

○ 園外療育

感染症対策を施し、交通機関や徒歩で市内の施設や公園に出掛け、公共機関でのルールを知るきっかけにしたり、自然の中で十分に体を動かさせたり、季節を感じる事ができた。時には親子で出かけ、保護者同士の交流の場になった。

④ 福祉サービスに関する苦情受付 【苦情件数】0件

## 5. 受託事業

### (1) 相談支援事業(市受託事業) [相談支援事業所「こころ」]

市内に居住する障害者などが自立した日常生活または社会生活を営むことができるよう、障害者などの福祉に関する各般の問題につき相談を受け、必要に応じ、対象者の訪問や来所された対象者への情報の提供や福祉サービスの利用などの支援をおこなった。

#### ① 相談支援事業実績(令和5年度)

##### ○障害別利用人数

	身体障害	知的障害	精神障害
障害者	123人	199人	286人
障害児	4人	8人	0人
計	127人	207人	286人
	発達障害	高次脳機能障害	その他
障害者	37人	8人	277人
障害児	12人	0人	10人
計	49人	8人	287人

##### ○支援方法

	訪問	来所相談	同行	電話相談	メール
件数	447件	241件	37件	1,899件	4件
	個別支援会議	関係機関	その他	合計	
件数	21件	397件	118件	3,164件	

##### ○支援内容

	福祉サービスの利用	障害や病状の理解	健康・医療	不安の解消・情緒安定	保育・教育
件数	2,312件	26件	307件	150件	31件
	家族関係・人間関係	家計・経済	生活技術	就労	社会参加・余暇活動
件数	19件	89件	56件	67件	12件
	権利擁護	その他	合計		
件数	16件	79件	3,164件		

#### ② 精神障害者社会復帰事業 [ほっとスペース]

市内に居住する精神障害者保健福祉手帳所持者を中心に、地域活動支援センターと連携し、茶話会・ハイキング・勉強会・料理教室等のイベントを開催することで、精神障害のある人同士で悩みを語り合うなど、家族以外の人と交流できる場作りをおこなった。

#### ③ 地域自立支援協議会への参画

障害者総合支援法に規定する地域における障害者児の相談支援体制の強化を目的とした障害福祉に関する関係者による連携及び支援体制ネットワークづくりの一環として、市内の障害者団体-事業所-学校関係等で構成する部会員による話し合いの場への参画。

##### ○生活支援部会

- ・生活支援拠点ワーキングチーム…1回参加

【開催日】令和5年3月5日(月)

#### ④ 障害者総合支援法のサービス利用に基づく障害支援区分の認定調査の実施

【件数】77件(令和4年度69件、令和3年度57件)

#### ⑤ 障害者総合支援法に基づくサービス利用計画の作成、モニタリングの毎月実施

【利用者数】165人(令和4年度145人)

⑥ 福祉サービスに関する苦情受付 【苦情件数】0件

(2) 地域活動支援センター事業(市受託事業) [地域活動支援センター「こころ」]

地域で暮らす精神障害者を対象に、日中活動の場(居場所)を提供し、各種プログラムの実施、日常生活や精神保健福祉に関する相談を通じて、生活の質を向上させるとともに、地域で支え合って自立した生活が可能となるように支援を行った。

○ サービス提供日時

月～金曜日(但し、12月29日～1月3日と祝日を除く)  
午前9時～午後5時

○ 事業実績

	令和5年度	令和4年度	令和3年度
個別利用者・相談者数	3,327件	2,938件	2,612件
延べ利用者・相談者数	4,893件	4,380件	—
登録者数	67人	59人	62人

※令和4年度より、新規手法の調査記録を開始し「延べ」数値項目を追加した。

登録者67人となり、さらに新型コロナウイルス感染症の「5類感染症」への位置づけ変更において、部門間連携により実現した多彩なプログラムや、ボランティアの積極的な受け入れ再開によりイベントやレクリエーションの機会を増やしたことで、利用数が増加した。

各プログラム企画の際には、メンバーの自主性を尊重する形でアイデアを出し合う場を設けた。また、それぞれの動きを把握し、より参加しやすい日程調整を行うと共に、少しの挑戦や成長の機会を提供できるよう工夫することで、継続参加へのモチベーションが生まれたと推測される。

個別で行える創作活動として、3年前より参加している「奈良県障害者作品展」への出品は、本年度も22名が参加し、昨年と同等数を維持。特に今年度は、参加者が優秀賞を受賞するなど、個人や団体の努力や才能が公に称えられ、自己肯定感や自信を高める機会となった。

今後の課題として、地活に求められる目的が幅広くその役割が見えにくい部分もあるなか、サロン利用が少ないメンバーにおいて、タイムリーな状況把握や個別の訪問・同行支援などと共に、相談支援事業所との連携をはじめとする必要な関連機関へと迅速に繋げる支援の在り方が求められる。

(3) 生活困窮者自立支援事業(桜井市受託) [桜井市くらしとしごと支援センター]

多様な問題を抱えた生活困窮者に対し、個別にアセスメントを行い、継続的な関りによる支援を行った。また税等の滞納に対する分納手続きのための官公庁、無料診療のための病院、就労支援のためのハローワーク、多重債務等の解決に向けた法律事務所等の各関係機関へと繋ぐ支援を行った。また奈良県社会福祉協議会と連携し、就労準備支援事業として、カウンセリングや生活習慣の見直しなどの助言・指導を行った。

さらに相談過程の中で、消費を中心として家計に課題があると思われる場合、消費・節税に対する助言などの家計改善に向けた支援を行ったり、住民税均等割のみ課税世帯支援給付金や非課税世帯への価格高騰追加支援給付金といった行政施策の案内・情報提供などを行った。

○ サービス提供日時

月～金曜日(但し、12月29日～1月3日と祝日を除く)  
午前9時～午後5時

○ 事業実績

	令和5年度	令和4年度	令和3年度
新規相談	75件	60件	48件
プラン作成	43件	26件	17件
就労支援対象者	36件	35件	13件

## 6. 指定管理事業

### (1) 総合福祉センター運営事業

桜井市より指定管理を受けている当施設は、市内外の利用促進を図るとともに、文化教養活動やコミュニケーションづくりの場として、健康づくりや生きがいづくりを支援した。

#### ○ センターの開館日・利用時間

##### ・開館日

水～日曜日(但し、12月29日～1月3日までと祝日の翌日を除く)

##### ・利用時間

午前9時～午後5時。但し、部屋の利用は午後4時まで。

浴場は、午前10時～午後4時。但し、受付は午後3時30分まで。

#### ○ 入館者数及び各部屋・浴場の利用状況

##### ・入館者数

	令和5年度	令和4年度	令和3年度
一般(個人)	6,281人	6,392人	6,536人
趣味の会	1,238人	1,307人	1,211人
団体	6,633人	5,518人	3,749人
合計	14,152人	13,217人	11,496人

##### ・各部屋の利用者数

	令和5年度	令和4年度	令和3年度
大広間	3,447人	2,922人	2,479人
研修室	3,475人	3,341人	2,051人
講座室	546人	404人	379人
合計	7,468人	6,667人	4,909人

##### ・浴場の利用者数

令和5年度	令和4年度	令和3年度
8,631人	7,612人	7,685人

##### ・趣味の会《参考》

趣味の講座	
竜吟書道クラブ	竜吟健康を創る会
竜吟囲碁クラブ	竜吟カラオケ会
竜吟パッチワークの会	竜吟気楽会

## 7. ボランティアセンター事業

市民のボランティア活動の推進を図るため、ボランティアセンターでは、ボランティア活動に関する相談対応、活動支援、コーディネート等を行った。令和5年5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことで、市民活動の再開、新しい展開や取り組み等の情報を整理、提供し、活動支援に取り組んだ。

社協のホームページ内「ボランティアセンター」で最新情報を掲載し、ボランティアの拠点としてボランティア情報の発信・活動啓発に努めた。

### (1) ボランティアに関する相談・支援・登録・コーディネート・情報収集・提供

#### ○ ボランティアセンター登録

【団体数】86団体(令和4年度77団体、令和3年度78団体)

【人数】グループ所属2,475人(令和4年度2,382人、令和3年度2,409人)

個人登録19人(令和4年度21人、令和3年度18人)

- ボランティアセンター利用状況
  - 【訪問人数】1,906人(令和4年度1,417人)
  - 【電話等件数】973人(令和4年度1,020人)
- ボランティアに関するコーディネート
- ボランティア関連団体、個人への活動支援
- ボランティアに関する相談、問い合わせへの対応
- ボランティアに関する情報収集・発信・提供
- レクリエーション用具、体験用具等貸出
  - 地域活動の推進を目的に、ふれあいサロンや地域活動支援センター等に、活動現場で利用するレクリエーション用具を、年間延べ33件55個の貸出しを行った。(令和4年度：17件29個)
- ボランティア行事用保険、ボランティア活動保険の加入手続き及び保険金請求手続き、保険加入料の助成申請の補助
  - 【ボランティア活動保険加入人数】1,386人(令和4年度1,437人)
  - 【ボランティア行事用保険加入数】138行事(令和4年度66行事)

## (2) 貸館事業

社会福祉の増進と福祉活動の促進に取り組む団体及び桜井市ボランティアセンターに登録されているグループ・団体に対し、市民活動への支援と自発的な活動の継続、活性化を促進することを目的とし、感染対策を施し、市社会福祉協議会分館ボランティア室及び市保健福祉センター「陽だまり」内ボランティアルームの貸館を行った。

場 所	件 数	人 数
分館ボランティア室(録音・点字室含む)	161件	1,706人
陽だまりボランティアルーム	23件	184人

## (3) 団体からの依頼による講座

- ① 『健康長寿 すぐに使えるちょいネタ講座』
  - 【開催日】令和5年5月13日(土)
  - 【場 所】市総合福祉センター(竜吟荘)
  - 【参加者】市老人クラブ連合会女性部推進委員 35人
- ② 『地域活動と健康長寿の講座～目指そう！健康長寿』
  - 【開催日】令和5年10月26日(木)
  - 【場 所】元JA三輪支店
  - 【参加者】JA三輪女性部 21人
- ③ 『地域活動のすすめ～健康長寿への近道～』
  - 【開催日】令和6年1月20日(土)
  - 【場 所】金屋区会所
  - 【参加者】金屋老人会女性部 24人

## (4) 学校からの依頼による学習指導

- ① 市立桜井中学校でボランティア体験学習の指導(市内保育所へ寄贈するおもちゃ作り)
  - 【開催日】令和5年10月10日(火)、10月24日(火)
  - 【場 所】桜井中学校 被服室
  - 【参加者】桜井中学校1年生 36人
- ② 市立朝倉小学校で車いす、高齢体験学習の指導
  - 【開催日】令和5年10月30日(月)
  - 【場 所】朝倉小学校 体育館
  - 【参加者】朝倉小学校3年生 26人

③ 市立初瀬小学校で車いす、高齢体験学習の指導

【開催日】令和5年11月28日(火)

【場 所】初瀬小学校 はせっ子広場

【参加者】初瀬小学校4年生 8人、5年生 10人

④ 市立桜井東中学校で車いす、視覚障がい、高齢体験学習の指導

【開催日】令和5年12月15日(金)

【場 所】桜井東中学校 教室及び校舎内指定場所

【参加者】桜井東中学校1年生 32人

※ ②～④については、地区民生児童委員や地域ボランティア活動者有志、校区の地域包括支援センター職員等へ学習指導に向けた講座および打合せを事前に行った上で、協働で実施。